Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

2月号—No.274
2018.1.25
（毎月1回25日発行）

【スミレ色】スミレの花のようなやや青みがかった紫色。

英語では赤みを帯びた紫がパープル、やや青みを帯びた紫がバイオレット（日本でいうところのスミレ色）、より青に近い紫がヒヤシンス。“ウルトラ・バイオレット”と称し、スミレ色が2018年の流行色（パントーン社）になっているので、ファッションに取り入れてみるといいかも。

●目次／*contents*

今月のニュース……2
平成29年度「邦楽地域活性化事業」報告
財団からのお知らせ……4
平成30年度「公共ホール音楽活性化事業」公開プレゼンテーション開催のお知らせ／「TPAM—国際舞台芸術ミーティング in 横浜2018」開催のお知らせ
今月の情報……5
地域通信／アーツセンター情報
今月のレポート……12
京都市　はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展「語りがたきものに触れて」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4066　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

●邦楽地域活性化事業

熊本県下の3市で地域交流プログラムを実施

平成29年度
邦楽地域活性化事業

写真

左上：全体研修会（2017年8月9日／熊本県立劇場）

右上：山鹿市立平小城小学校で行われたアウトリーチ（左から本間貴士、多田彩子、澄川武史）

左下：荒尾市立平井小学校で行われたアウトリーチ（左から渡部祐子、本田浩平、田辺しおり）

右下：天草市立浦和小学校で行われたアウトリーチ（左から田嶋謙一、神令、青木琳道）

●平成29年度邦楽地域活性化事業
[主催]公益財団法人熊本県立劇場
[共催]一般財団法人地域創造
[地域交流プログラム実施団体]天草市、荒尾市、山鹿市
[チーフコーディネーター]児玉真（一般財団法人地域創造プロデューサー）
[コーディネーター]谷垣内和子（公益社団法人日本芸能実演家団体協議会実演芸術振興部企画室長）、米澤浩（邦楽演奏家、NPO法人日本音楽集団副代表）、楠瀬寿賀子（音楽企画コーディネーター）
[アドバイザー]本田恵介（公益財団法人熊本県立劇場理事・事務局長）
[演奏家]
•山鹿市：本間貴士（二十五絃箏、十七絃、作曲）、多田彩子（二十五絃箏、薩摩琵琶）、澄川武史（横笛）
•荒尾市：渡部祐子（箏、三絃、十七絃）、本田浩平（津軽三味線）、田辺しおり（尺八）
•天草市：神令（尺八）、田嶋謙一（尺八）、青木琳道（尺八）
[問い合わせ]芸術環境部　阿比留
Tel. 03-5573-4069

邦楽地域活性化事業は、地域創造の支援により都道府県・政令指定都市（もしくは設置したホール）が主催し、市町村ホール等と連携して邦楽の魅力にふれる機会とノウハウを学ぶ機会を提供する事業です（詳細は枠組み参照）。邦楽が義務教育化されるなど、伝統文化への関心が高まっていることから、公立ホールでも一層の取り組みが求められています。今年度は、鈴木健二元館長の時代から、地域の伝統文化の掘り起こしや市町村ホールとのネットワーク構築に取り組んできた熊本県立劇場の主催により、天草市（天草市民センター）、荒尾市（荒尾総合文化センター）、山鹿市（八千代座）で実施されました。今回は尺八奏者3名による珍しいアンサンブルで事業を行った天草市の取り組みをご紹介します。

●邦楽の新たなアンサンブルにふれる

平成22年度に次いで今回2度目の主催となる熊本県立劇場の本田恵介事務局長は、「来年度60回を迎える熊本県芸術文化祭のオープニングステージを邦楽で企画したいと考えており、今回の事業がそれに繋がればと思っています。2月の派遣演奏家によるガラコンサートには地元の箏の先生にも出演していただく予定です。この事業が、熊本箏演奏者協会との新たな関係づくりのきっかけになればと思っています」と事業の積極的な活用について話していました。

邦楽地域活性化事業では、演奏家3名がアンサンブルを組んで参加するのが大きな特徴となっています。平成21年度にモデル事業としてスタートしてから昨年度までに、箏や三曲（箏、尺八、三味線）を中心に24組のグループが参加。今年度は、津軽三味線、琵琶、二十五絃箏、横笛といった邦楽器や尺八だけのアンサンブルなどこれまでにない編成で新たな邦楽の魅力にふれる機会となりました。

天草市では、尺八奏者3名（神令、田嶋謙一、青木琳道）が1月11日、12日に小学校3校でアウトリーチを行いましたが、不思議な竹の音に子どもたちは興味津々でした。今年限りで閉校になる浦和小学校では、4・5年生と6年生を対象に実施。姿を見せないままベランダ

や教室の外から尺八の音を響かせて、風の音を聴くように子どもたちの耳を尺八に集中させたオープニングに始まり、自己紹介を兼ねたソロ演奏、尺八アンサンブルでの『アメージンググレース』、長さの違う尺八の音比べ、尺八の代表曲『鹿の遠音』など、景色や自然をとらえる尺八の魅力を飽きさせることなく伝えていました。

神さんは、「アウトリーチだと3種類の楽器を紹介できる三曲スタイルが多いですが、それだと尺八に特化した魅力を伝えることができません。尺八は唄のない器楽であり、歌詞のない音を純粋に聴いてもらいたくて尺八だけのアンサンブルにしました。今の子どもたちはCDも買わず、ヘッドホンで音楽を聴くことがほとんど。すごく限られた指向性で音をとらえていて、そういう音楽環境は異常だと思います。今回は子どもたちの周りを歩きながら演奏するなどサラウンドで音を聴いてもらう試みも行いましたが、聞こえてくる音に意識をもつことを体感してもらえたのではないでしょうか」と手応えを感じていました。

今年度から天草市民センターの指定管理者になり、今回の事業を担当した一般社団法人天草市芸術文化協会の湯貫登さんは、「天草市は市民の文化活動が盛んで、文化協会はそうした団体による会員組織です(ちなみに私もアマチュア劇団で活動しています!)。熊本県が2013年に立ち上げた『くまもと子ども芸術祭』の第1回開催地になったのをきっかけに、『あまくさ子ども芸術祭』が始まりました。こうした芸術祭や今回のアウトリーチなどにより衰退している伝統文化が子どもたちに普及できればと参加しました。これまで邦楽にはかしこまったイメージがありましたが、今回の事業でとてもハードルが下がりました」と言い、ホールコンサートでは地元箏曲家との共演に挑戦していました。

荒尾市や山鹿市の担当者は「慣れない事業で最初は緊張していましたが、専門家の派遣や研修があって助かりました」「アウトリーチに目を輝かせる子どもたちの姿に感動しました。本当にやってよかったです」と声を揃えていました。

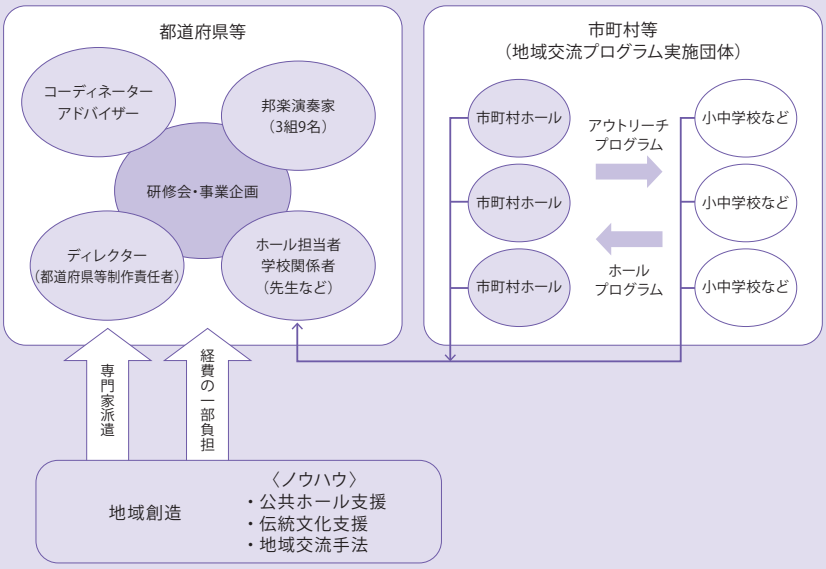
2月4日には、熊本市男女共同参画センターはあもにいで3組が出演するガラコンサートが開催されます。邦楽事業に興味のある近隣ホールの方はぜひご来場ください。

●平成29年度邦楽地域活性化事業「邦楽ガラコンサート」
[日程]2018年2月4日　14:00開演
[会場]熊本市男女共同参画センターはあもにい　メインホール
[出演]本間貴士、澄川武史、多田彩子、渡部祐子、田辺しおり、本田浩平、神令、田嶋謙一、青木琳道ほか

●邦楽地域活性化事業の枠組み

都道府県・政令指定都市(もしくは設置した公立ホール)が主催し、市町村ホール等(地域交流プログラムを実施する団体)と連携して実施する事業。専門家が推薦する邦楽演奏家から地域創造と主催団体が3名の邦楽演奏家を決定し、その3名が中心となって各々チームを編成。地域において邦楽事業の基礎を学び、アウトリーチのデモンストレーションを見学する全体研修会(一部公開)、および邦楽演奏家3組とコーディネーターが邦楽アウトリーチの手法を開発する4日間の短期集中研修を実施。地域交流プログラム実施団体はその邦楽演奏家(各1組)とコーディネーターと共に学校へのアウトリーチ、ホールでのワークショップまたはコンサートを実施。また、主催団体は全邦楽演奏家によるガラコンサートを企画・開催。地域において邦楽の魅力にふれる機会を提供するとともに、邦楽分野におけるアウトリーチ等のノウハウの普及を目指す。

邦楽地域活性化事業の考え方



財団からのお知らせ

●平成30年度「公共ホール音楽活性化事業」公開プレゼンテーション開催

公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）の平成30・31年度登録アーティスト8組による公開プレゼンテーションを開催します。このプレゼンテーションは、平成30年度におんかつ事業およびおんかつ発展継続事業（※モデル事業）を実施する団体向けに実施するものですが、今後、おんかつ事業の実施を検討しているホール担当者や関心のある方にも公開して行います。

プレゼンでの演奏やトークを通して、おんかつの枠組みである学校や福祉施設等でのアクティビティ（地域交流プログラム）と、ホールでのコンサートに各アーティストがどのような姿勢で臨むのかを知ることができる絶好の機会です。

観覧を希望される方は、3月号（2月25日発行）の地域創造レターに同封しますチラシにてお申し込みください。

おんかつ公開プレゼンテーション概要
[日程]平成30年4月24日（火） 14：30開演（予定）
[会場]Hakujuホール（東京都渋谷区富ヶ谷1-37-5）
[内容]各組20分程度のプレゼンテーション
[出演]平成30・31年度登録アーティスト 8組
岡田奏（ピアノ）、酒井有彩（ピアノ）、中野翔太（ピアノ）、田中拓也（サクソフォン）、糸賀修平（テノール）、山本奈央（オカリナ）、泉真由×松田弦（フルート、ギター）、アーバン・サクソフォン・カルテット（サクソフォン四重奏）

●「TPAM―国際舞台芸術ミーティング in 横浜2018」開催のお知らせ

国内外の重要な劇場・フェスティバル・芸術文化団体から数百人の関係者が集い、公演や交流プログラムを通じて、舞台芸術の創造・普及・活性化のための情報を交換し、ネットワークを広げるプラットフォーム「TPAM（ティーパム）―国際舞台芸術ミーティング in 横浜」が2月に横浜市内各所で開催されます。

参加者自身がテーマを設定して少人数（約10～30名）／30分のミーティングを主催できる交流プログラム「グループ・ミーティング」では、劇場やアーティスト団体、助成団体、公立文化機関の活動紹介だけでなく、関係者同士で共有したい課題など多様なテーマでミーティングが行われます。また、ゲストを招いて舞台芸術と社会を繋ぐさまざまなトピックをテーマにしたシンポジウムやトークも実施します。

公演プログラム「TPAMディレクション」では、サウンドアーティストとして国際的に注目を集めるサムソン・ヤン（楊嘉輝、香港）による「非殺傷音響兵器」を用いたパフォーマンス『カノン』、今年「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで」展で高く評価された映画作家ホー・ツーニェン（何子彦、シンガポール）の映像インスタレーション『2匹または3匹のトラ』に東南アジアの影絵人形劇の要素が導入された最終形『一頭あるいは数頭のトラ』、音楽・美術・パフォーマンスを横断する活動を展開する梅田哲也（日本）が劇場スタッフと共に劇場の機構そのものを「上演／演奏」するコンサート／パフォーマンス『インターンシップ』、その他ヴィジュアルアーティスト、作家、DJ、バンド、リサーチャーなどの異分野の才能による舞台芸術へのコンセプチュアルな、ユーモラスな、あるいは深遠な取り組みを中心にご紹介します。

そのほか、新人の作品から国際的に評価されるプロジェクトまで多様な公演が集まる公募プログラム「TPAMフリンジ」も開催。未だ見ぬ才能を発見するチャンスです。参加登録はウェブサイト（http://www.tpam.or.jp）からお申し込みください。

上：ホー・ツーニェン（シンガポール）『一頭あるいは数頭のトラ』 Courtesy of the artist
下：昨年のグループミーティングの様子　撮影：前澤秀登

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部　三浦
Tel. 03-5573-4078

●TPAM－国際舞台芸術ミーティング in 横浜2018
[会期]2018年2月10日～18日
[主会場]KAAT神奈川芸術劇場、BankART Studio NYK、横浜赤レンガ倉庫1号館、YCC ヨコハマ創造都市センター、Bayani's Kitchen、急な坂スタジオ、Amazon Club
[主催]国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2018 実行委員会（国際交流基金アジアセンター、公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、PARC―国際舞台芸術交流センター）
[助成]公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー、損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」（企業メセナ協議会 2021 Arts Fund）
[協賛]株式会社 資生堂
[後援]外務省、文化庁、神奈川県、横浜市

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　宇野・高澤

●2018年4月号情報締切
3月1日(木)

●2018年4月号掲載対象情報
2018年4月～6月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」掲載情報募集中
当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。
◎公共ホール等の求人情報
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報
掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。　http://www.jafra.or.jp/

北海道・東北

●北海道北見市
北見芸術文化ホール
〒090-0811 北見市泉町1-3-22
Tel. 0157-31-0909　中野雅代
http://kitami-hall.sakura.ne.jp/kitart21/

オホーツクの風土が生んだアーティストシリーズ20「西尾貴浩 サクソフォンリサイタル with 雲カル」
毎年オホーツク地方にゆかりのあるアーティストを取り上げてきたシリーズの20回目。今回は北見芸術文化ホール開館20周年事業として、中学高校時代をオホーツク管内で過ごしたサクソフォン奏者・西尾貴浩によるリサイタルを開催する。ソロに加え、西尾が所属する雲井雅人サックス四重奏団による演奏も行われる。
[日程]2月24日
[会場]北見芸術文化ホール

●青森県青森市
青森県立美術館
〒038-0021　青森市安田字近野185
Tel. 017-783-5243　渋谷泰一
http://www.aomori-museum.jp

青森県立美術館舞台芸術企画 アレコ2018『Zemphira』
2017年4月から全4作品完全展示しているシャガール作バレエ『アレコ』舞台背景画(1・2・4幕を同館が収蔵、フィラデルフィア美術館収蔵の第3幕を4年間借用)の展示室・アレコホールを会場に、『アレコ』が原作としたプーシキンの長編詩『ジプシー』においてアレコの恋人であったゼンフィーラ(Zemphira)を中心とした物語に構成し上演する。ダンサーのチャン・イエラ(韓国)をはじめ、北海道・北東北の一輪車団体、県民のダンサー等が出演。構成・脚本・演出は同館舞台芸術総監督を務める劇作家・演出家の長谷川孝治。
[日程]2月3日、4日
[会場]青森県立美術館

昨年の公演の様子　撮影:西川幸治

●岩手県遠野市
遠野物語ファンタジー制作委員会
〒028-0524　遠野市新町1-10
Tel. 0198-62-6191　脊戸千明
http://www.tonojikan.jp/event/0224-3/

第43回遠野物語ファンタジー『又吉のまた夢』
地元に伝わる口承民話を題材として毎年開催している市民演劇。出演者も経験者や初参加などさまざまで、原作は公募により決定し、脚本・演出・演奏もすべて市民がつくり上げる。今回は小友町の山谷観音堂を舞台にした物語で、内容は佐々木喜善の代表作『聴耳草紙』などから数話を参考にして書き上げたものとなっている。
[日程]2月24日、25日
[会場]遠野市民センター

●宮城県大河原町
えずこホール
〒989-1267　柴田郡大河原町字小島1-1
Tel. 0224-52-3004　玉渕博之
http://www.ezuko.com/

AZ9ジュニア・アクターズ第25回公演『牟宇姫とボクとあの殿様～角田治水史異聞～』
仙南地域の阿武隈川(A)と蔵王連峰(Z)の環境を共有する9つの自治体の小学4～6年生約30人で構成された児童劇団・AZ9ジュニア・アクターズ。平成5年に結成され、今年度で25年目となる。6月の結成式から始まる約8カ月の活動期間中に、演劇レッスン以外にも、表現ワークショップや福祉施設へのアウトリーチ等、計40回程度の活動を行う。秋からは本公演に向けたレッスンを重ね、その成果を発表する。
[日程]2月11日、12日
[会場]えずこホール

昨年の公演『村田スカイマメーズ～奥州蛇藤伝説2017～』

●山形県東根市
まなびあテラス
〒999-3730　東根市中央南1-7-3
Tel. 0237-53-0229　井上歩美
http://www.manabiaterrace.jp/

ながさわたかひろ滞在制作展「オレ新聞」
東根市出身の版画家・ながさわたかひろが、身のまわりの出来事や気になるニュースを描く「オレ新聞」。期間中、展示会場に常駐して1日1枚制作し、展示室に貼り出していく。このほか「プロ野球画報」シリーズ、「に・褒められたくて」シリーズなど過去の代表作も併せて展示し、そのユニークでひたむきな制作スタイルを紹介する。
[日程]1月13日～2月12日
[会場]まなびあテラス

●福島県いわき市
いわき芸術文化交流館アリオス
〒299-1172　いわき市平字三崎1-6
Tel. 0246-22-8111　前田優子
http://iwaki-alios.jp/

おでかけアリオス研究会第3期アーティストコンサート
市内の小中学校を訪れ、子どもたちに生の音楽を届けている「おでかけアリオス」。コミュニ

ケーションを大切にしたオリジナルプログラムをつくるなど、3年間の研修を積んできた「おでかけアリオス研究会」第3期アーティストが、音楽の魅力を披露する。市内出身・在住のアーティスト4組の集大成コンサート。
[日程]2月16日
[会場]いわき芸術文化交流館アリオス

「おでかけアリオス」の様子

関東

●茨城県水戸市

茨城県近代美術館
〒310-0851　水戸市千波町東久保666-1
Tel. 029-243-5111　井野功一
http://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/

企画展「生誕100年　清宮質文　あの夕日の彼方へ」

改修工事による長期休館からの再開後、第1弾となる企画展。彫りの線や摺りによる色の重なりなどの木版ならではの表現を追求した、本県ゆかりの作家・清宮質文の生誕100年を記念する大回顧展。木版の代表作に加え、水彩、ガラス絵など191点を紹介する。
[日程]2月23日～4月8日
[会場]茨城県近代美術館

●茨城県水戸市

水戸芸術館
〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8
Tel. 029-227-8111　篠田・鴻巣
https://www.arttowermito.or.jp/

高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート

国内外で活躍する水戸室内管弦楽団の名手たちが、地元茨城の高校生たちを指導する公開レッスン。今回は大編成の吹奏楽指導に加え、小編成の管楽アンサンブル指導・成果発表もあり、大小違った編成での練習の仕方を間近に感じることができる。受講団体は、茨城高校吹奏楽部(全体合奏・金管五重奏)、大成女子高校吹奏楽部(フルート三重奏)。
[日程]2月10日
[会場]水戸芸術館

過去の公開レッスンの様子

●さいたま市

埼玉県立近代美術館
〒330-0061　さいたま市浦和区常盤9-30-1
Tel. 048-824-0111　梅津・五味
http://www.pref.spec.ed.jp/momas/

版画の景色 現代版画センターの軌跡

版画の普及とコレクターの育成を目ざした現代版画センター(1974～85)は、10年あまりの活動の中で、およそ80名の美術家と700点余りの作品を世に送り出した。センターで作品を発表した作家には、さまざまなジャンルのアーティストが含まれており、垣根を越えた活動のあり方は、当時画期的なものとして大きな関心を集め、多くの美術家や批評家が寄稿した「現代版画センターニュース」等の出版活動も美術界に大きな影響を与えた。センターが制作した作品と資料から、その活動の軌跡をたどる。
[日程]1月16日～3月25日
[会場]埼玉県立近代美術館

●埼玉県富士見市

富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ
〒354-0021　富士見市大字鶴馬1803-1
Tel. 049-268-7788　中出千尋
http://www.kirari-fujimi.com/

キラリふじみ・リージョナルカンパニー ACT-F(アクト エフ)第2期成果発表『超☆人生いろいろゲーム2018』

2016年から始動した、同館付属のカンパニーACT-F。カンパニーディレクターの多田淳之介を中心に、公募で集まったアーティストや市民によるメンバーが、地域(Fujimi)のため、未来(Future)のためのプロジェクトを企画し実施する。第2期の成果発表として、この1年の活動を通してメンバーが考えてきた「福祉」をテーマに、オリジナルのゲームを楽しみながら、参加者にも一緒に考えてもらえるイベントを企画する。
[日程]2月18日
[会場]富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

●千葉市

千葉県文化振興財団
〒260-8661　千葉市中央区市場町11-2
Tel. 043-222-0077　菅生剛
http://www.cbs.or.jp/

音楽と映像のコラボレーションコンサート～ギター《村治佳織》&ピアノ《黒木雪音》～

映像をバックにオーケストラの演奏を楽しんでもらうコンサート。千葉交響楽団と共に、ギター奏者・村治佳織と、19歳ながらも高い評価を得ている地元出身のピアノ奏者・黒木雪音が出演。映画『砂の器』のメインテーマ曲である「宿命」など親しみやすい曲を取り上げ、映像を振り返りながら、今までにない新たなステージを目指す。
[日程]2月11日
[会場]千葉県文化会館

●千葉市

千葉市美術館
〒260-8733　千葉市中央区中央3-10-8
Tel. 043-221-2311　水沼・畑井
http://www.imperfection.info/

小沢剛　不完全―パラレルな美術史

現代美術家・小沢剛の久しぶりの大規模個展。新作インスタレーションでは「石膏像／石膏デッサン」をテーマに美術教育の視点から日本美術史を紐解く。そのほか《金沢七不思議》や《醤油画資料館》などの展示室が一変するほど作り込まれたインスタレーション作品も多く、写真も撮ることができ、現代美術に慣れない人も楽しめるようになっている。
[日程]1月6日～2月25日
[会場]千葉市美術館

●東京都調布市

調布市文化・コミュニティ振興財団
〒182-0026　調布市小島町2-33-1
Tel. 042-441-6150　立石・白勢
https://www.chofu-culture-community.org/

能の学校・見本市

日本を代表する古典芸能であり、時代とともに受け継がれてきた能の世界観から実際の演出、演技まで、伝承の妙技を解体する公演。囃子の音楽性や装束・能面についての解説、体験・着付けのほか、舞囃子『鶴亀』の実演や深大寺こども薪能の子どもたちによる発表など、「見本市」のように催される。出演は山中迓晶(観世流シテ方)、栗林祐輔(森田流笛方)ほか。
[日程]2月12日
[会場]調布市文化会館

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

●横浜市

神奈川芸術文化財団／マグカル・フェスティバル実行委員会
〒231-0023　横浜市中区山下町281
Tel. 045-633-6500　林美佐
http://www.kaat.jp/

KAAT×マグカル・フェスティバル実行委員会 Lune Production『A O SHOW』

日本初上陸となるベトナムのヌーヴォーシルク（新しいサーカス）グループ「ルーンプロダクション」の公演。ベトナム南部の農村と都市の“日々の暮らし”を、竹や籠などのベトナムの日用品を使って、シルク、アクロバット、ダンス、17種類のベトナム楽器を使用した伝統音楽で表現し、ひとつの物語として構成する。パフォーマンスと音楽を通して、観客をベトナムの風景に導く。
［日程］2月23日～25日
［会場］KAAT神奈川芸術劇場

Photography company 'Dragon Images' (www.dragonimages.asia)

●横浜市

磯子区民文化センター杉田劇場
〒235-0033　横浜市磯子区杉田1-1-1　らびすた新杉田4F
Tel. 045-771-1212　西岡
http://www.sugigeki.jp/

杉劇☆歌劇団本公演『BEAUTIFUL TIME』

2012年に結成された地域密着型エンターテインメント集団「杉劇☆歌劇団」によるハートフルな街の物語のオリジナル演劇を上演する。団員は公募で集まった老若男女で、地域の魅力を劇に乗せて発信するため、毎週稽古を重ねている。今年は杉田劇場の4階スペースを丸ごと舞台へと変身させる。
［日程］2月4日
［会場］磯子区民文化センター杉田劇場

北陸・中部

●新潟市

新潟市新津美術館
〒956-0846　新潟市秋葉区蒲ケ沢109-1
Tel. 0250-25-1300　長島彩音
http://www.city.niigata.lg.jp/nam/

パリに生きる新潟の作家たち

2011年より“新潟地域にゆかりの美術”という収集方針を立て、日頃から地域作家の研究を集積。今回は、新潟と繋がりをもちながらパリを中心に世界で活躍する、彫刻や絵画、写真、デザインなどさまざまなジャンルの7名を紹介。市内の公園や駅前にパブリックアートを制作した原田哲男など、日頃から新潟で親しまれている作家の活躍を取り上げる。
［日程］1月27日～3月11日
［会場］新潟市新津美術館

●新潟県十日町市

越後妻有里山協働機構事務局
〒948-0003　十日町市本町6
Tel. 025-761-7767　芝山祐美
http://www.echigo-tsumari.jp/

「大地の芸術祭」の里 越後妻有2018冬「SNOWART」

「大地の芸術祭」の里の冬プログラム。豪雪地の魅力をアートの力で掘り起こす。5回目を迎える「越後妻有　雪花火」をはじめ、冬シーズンでは初となる公募の入選作品を、初公開となる冬の奴奈川キャンパスで公開。新潟で活動するアーティストによる、雪を使ったさまざまな作品を紹介する。そのほか、ツアープログラムや、越後妻有里山現代美術館［キナーレ］などで冬の企画展も開催する。
［日程］2月24日～3月11日
［会場］越後妻有里山現代美術館［キナーレ］ほか越後妻有地域

Kyota Takahashi "Gift for Frozen Village 2017"／越後妻有 雪花火2017
Photo by Mito Murakami／Reiko Kawaguchi

●石川県小松市

小松市立博物館／小松市立錦窯展示館
〒923-0903　小松市丸の内公園町19
Tel. 0761-22-0714　橋本・中川
http://www.kcm.gr.jp/hakubutsukan/

九谷焼窯元『松雲堂』スゴ技！九谷焼下絵の世界

鮮やかで精細な絵付けで知られる色絵磁器・九谷焼の下絵に注目した展覧会。明治期に開窯し人気を博した窯元・松雲堂の膨大な資料から、下絵や型紙、スケッチなどの資料を中心に展示し、陶工たちの精魂を込めたデザイン性の高い図案を通して、その歴史を展観する。下絵とそれを元とした焼物作品が合わせて展示される物もあるほか、石川県立九谷焼技術研修所の研修生による復刻作品など、約100点以上の作品・資料が展示される。
［日程］2017年12月12日～3月11日
［会場］小松市立博物館／小松市立錦窯展示館

●石川県金沢市

石川県立美術館
〒920-0963　金沢市出羽町2-1
Tel. 076-231-7580　寺川和子
http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

森羅万象をまとう

金沢市生まれの木村雨山の没後40年の節目を記念し、開催される展覧会。手描き友禅をベースに、独自の作風を展開した加賀の地にゆかりのある2人の人間国宝、木村雨山と二塚長生の代表作63点を一堂に公開し、その業績を紹介する。友禅振袖や訪問着などを中心に、優美な作品とその魅力を堪能できる。
［日程］1月4日～2月12日
［会場］石川県立美術館

●山梨県甲府市

山梨県立美術館
〒400-0065 甲府市貢川1-4-27
Tel. 055-228-3322　下東佳那
http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/

山梨県立美術館物語 40年間のストーリー&ヒストリー

開館40周年を記念して、同館の歩みをさまざまな資料や所蔵品を通して振り返る展覧会。地鎮式、建設中の様子、ミレー《種をまく人》が報道陣の前に初めて公開された時の熱気や、アンケートによって選ばれた所蔵品「私の愛する作品たち」を、一部寄せられたコメントとともに展示。特別展の蓄積や教育普及事業の発展など4章に分け歴史をたどる。
［日程］1月2日～3月4日
［会場］山梨県立美術館

●岐阜県岐阜市

岐阜県教育文化財団
〒502-0841 岐阜市学園町3-42（ぎふ清流文化プラザ内）
Tel. 058-233-5810　桑原聡
http://www.g-kyoubun.or.jp/jimk/youshiki/opera.htm

第22回岐阜県民文化祭・ぎふ文化の祭典　ひだ・みの創作オペラ

1999年に始まり、今年で22回

目を迎える岐阜県の文化の祭典。毎年、県内各地に伝わる民話や伝説などを題材とし、一般公募で募った県内の出演者が演じる創作オペラ。今回は、恵那に伝わる民話を題材とする「秋祭り」と飛騨の民話を基にした『西忍池(にししのびいけ)』を上演する。
[日程]2月11日
[会場]恵那文化センター

●岐阜県多治見市
バロー文化ホール(多治見市文化会館)
〒507-0039　多治見市十九田町2-8
Tel. 0572-23-2600　猪野千津子
http://www.tajimi-bunka.or.jp/bunka/

和芸フリースクール たじみde和芸　発表会

「伝統芸能を身近に感じること」「ワークショップを通じて人と人がつながること」「伝統芸能が地域に根付くこと」を目的とした講座「たじみde和芸」。その受講生が、5カ月にわたる狂言・講談・落語の稽古を経てその成果を発表する。狂言では9人による3演目の公演があり、講談の3人、落語の20人の受講生はすべて異なった演目で出演する。また講師の茂山逸平(狂言)、宝井一凛(講談)、柳家花ん謝(落語)も司会として登場し、講談と落語では一席を披露する。
[日程]2月25日
[会場]バロー文化ホール(多治見市文化会館)

●静岡市
静岡県立美術館
〒422-8002　静岡市駿河区谷田53-2
Tel. 054-263-5755　川谷承子
http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/

アートのなぞなぞ―高橋コレクション展

精神科医で現代アートのコレクターとしても知られる高橋龍太郎がこれまでに収集した作品約2,500点の中から、1990年代以降の日本の現代アートのエッセンスを、3つのなぞに沿って紹介する。さらに、高橋の考えに触発されて学芸員が選んだ収蔵品を同じ空間に並べて展示。2つのコレクションの組み合わせの妙に迫る。
[日程]2017年12月23日～2月28日
[会場]静岡県立美術館

●名古屋市
名古屋市文化振興事業団(芸術創造センター)
〒461-0004　名古屋市東区葵1-3-27
Tel. 052-931-1811　柴田ちはる
https://www.bunka758.or.jp/

名古屋市芸術創造センター演劇アカデミー修了公演『科学する探偵～名古屋から乱歩を支えた作家・小酒井不木の生涯～』

次世代を担うアーティストの育成を目的に開講された「名古屋市芸術創造センター演劇アカデミー」の受講生33人が、約4カ月間の稽古を経て行う修了公演。講師としても参加した名古屋ゆかりのプロの俳優4名と共に、医学者・探偵小説作家の小酒井不木と探偵小説作家・江戸川乱歩の2人の交流を描いた、はせひろいち書き下ろしの新作ミステリーを上演する。
[日程]2月24日、25日
[会場]名古屋市芸術創造センター

●愛知県知立市
ちりゅう芸術創造協会
〒472-0026　知立市上重原町間瀬口116
Tel. 0566-83-8100　堀川克磨
http://patio-chiryu.com/

しみん音楽会　渋さ知らズオーケストラ in Chiryu

市民とつくる舞台芸術プロジェクトに、渋さ知らズオーケストラが登場。事前にリーダーの不破大輔を中心とするメンバーを講師にコンサートに向けた舞台美術の作成や演奏、踊りのレクチャーをワークショップで行い、市民参加の舞台づくりが実現する。
[日程]2月12日
[会場]パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)

●愛知県長久手市
長久手市文化の家
〒480-1166 長久手市野田農201
Tel. 0561-61-3411　齋藤あい
https://www.city.nagakute.lg.jp/bunka/ct_bunka_ie.html

創造博

高い芸術性、卓越した専門性に基づく豊富な知識や優れた技能、技術を生かし、職員やスタッフ、関係者などと連携を図りながら文化の家の創造的事業の企画や運営に携わる専属アーティスト「創造スタッフ」が、1年間の集大成として作品を披露する。普段さまざまな場で活躍している3名の音楽家、2名の美術家、俳優、ダンサー、計7名のスタッフが“アツイ想い”を形にしたプログラムを披露する。
[日程]2月4日、14日～28日
[会場]長久手市文化の家

創造スタッフ・豊永洵子(ダンス)のパフォーマンス(ダンサー in the アトリウム)

近畿

●京都市
Kyoto演劇フェスティバル実行委員会
〒602-0858　京都市上京区河原町通広小路下ル(京都府立文化芸術会館内)
Tel. 075-222-1046　上田晶人
http://kyoto-enfes.seesaa.net/

第39回Kyoto演劇フェスティバル

1979年より続く、京都の冬の恒例演劇祭が39回目を迎える。関西全域から集った団体による「公募公演プログラム」のほか、合同ワークショップや指導者を派遣する「舞台創造アシスト事業」などの関連企画を開催。さらに、今回から演フェスでの上演を経て選出された劇団に対し、府内各地域の演劇祭などで上演招待の機会を設けるなど、活動の場を広げる機会とする。
[日程]2月10日～18日
[会場]京都府立文化芸術会館

昨年度の様子(児童青少年部門・宇治っ子朗読劇団☆Genji「源氏物語 桐壺」)

●兵庫県伊丹市
いたみ文化・スポーツ財団
〒664-0846　伊丹市伊丹2-4-1
Tel. 072-782-2000　宮村・木原
http://www.aihall.com/

現代演劇レトロスペクティヴ AI・HALL＋内藤裕敬『二十世紀の退屈男』

時代を画した現代演劇作品を、関西を中心に活躍する演劇人によって上演する「現代演劇レトロスペクティヴ」。今回は、南河内万歳一座の内藤裕敬が、1987年初演、その後再演を重ねてきた初期の代表作『二十世紀の退屈男』を、劇団外で初めて演出。60人以上の応募の中からオーディションによって選ばれた18人の俳優たちと共に上演する。
[日程]2月22日～26日
[会場]アイホール(伊丹市立演劇ホール)

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

●兵庫県芦屋市

芦屋市立美術博物館

〒659-0052　芦屋市伊勢町12-25

Tel. 0797-38-5432　大槻晃実

http://ashiya-museum.jp

小杉武久　音楽のピクニック

音楽家・小杉武久の活動の軌跡を1950年代から現在までにわたって俯瞰的にとらえる展覧会。既成の“音楽”という概念を拡張しようとする小杉の活動を、5章構成で紹介。1〜4章では、「グループ・音楽」から「マース・カニングハム舞踊団」まで小杉の多彩な活動のドキュメントとなる約300点のアーカイブ資料を、5章では70年代以降に発表してきたオーディオ・ビジュアル作品を展示する。

[日程]2017年12月9日〜2月12日

[会場]芦屋市立美術博物館

マース・カニングハム舞踊団　神戸公演リハーサル風景（1964年）

●兵庫県稲美町

稲美町立文化会館コスモホール

〒675-1114　加古郡稲美町国安1286-1

Tel. 079-492-7700　江村識子

https://www.town.hyogo-inami.lg.jp/

ふるさといなみのピアニスト 畑岡知子ピアノコンサート

地元出身・在住で関西を中心に活動している若手ピアニスト、畑岡知子による初めてのソロコンサート。いなみ野音楽祭や合唱団・吹奏楽とのステージなど、ホールでの演奏も100回を超え、地域に根ざしたアーティストとして活躍。同じく兵庫県出身の喜多ちひろ（ヴァイオリン）、崎元蘭奈（チェロ）、畑岡の活動するコスモシンフォニックウィンズがゲストとして出演。

[日程]2月25日

[会場]稲美町立文化会館コスモホール

中国・四国

●島根県松江市

しまね文化振興財団

〒690-0887　松江市殿町158

Tel. 082-244-8000　坂井陽介

http://www.cul-shimane.jp/hall/event/engeki-fes2017/

しまね演劇フェスティバル2017 第1回しまね演劇コンクール

島根で演劇活動を行う団体の発表の場づくり、団体同士の交流による活動の発展、また作品をつくる側と観客がお互いに楽しむショーケースとなることを目指したコンクール。高校演劇部から県内で活動する劇団まで出演6団体の作品を観劇し、観客の投票により、初代「しまね演劇大賞」が決定する。

[日程]2月24日、25日

[会場]島根県民会館

●広島市

広島市文化財団

〒730-0812　広島市中区加古町4-17

Tel. 082-244-8000　神明（しんめい）恒彦

http://h-culture.jp/

演劇引力廣島 第15回プロデュース公演『昼下がりの思春期たちは漂う狼のようだ』

地域での本格的な演劇創作を継続的に行い、実戦的なスキルアップを目指すプロジェクト。劇作家・演出家の蓬莱竜太との3年計画の最終年となる今回は、蓬莱の新作書き下ろしにより、27人のキャストによる中学生ドラマを描く。オーディションで選ばれた広島をはじめ各地の演劇人たちと織りなす集大成となる作品。

[日程]2月21日〜25日

[会場]JMSアステールプラザ

昨年の公演　第14回プロデュース公演『広島ジャンゴ』

●広島市

広島市現代美術館

〒732-0815　広島市南区比治山公園1-1

Tel. 082-264-1121　竹口浩司

https://hiroshima-moca.jp/

交わるいと「あいだ」をひらく術として

糸や布、繊維を素材に制作を続ける15人と1組のつくり手たちによる展覧会。タイトルの「いと」は素材としての「糸」を意味すると同時に、つくり手たちの「意図」でもある。糸が交わって布が生まれるようにつくり手たちの意図が交わった作品が展示される。

[日程]2017年12月22日〜3月4日

[会場]広島市現代美術館

●山口県山口市

山口情報芸術センター［YCAM］

〒753-0075　山口市中園町7-7

Tel. 083-901-2222　井高久美子

http://www.ycam.jp/

布のデミウルゴス―人類にとって布とは何か？

京都・西陣織の老舗である株式会社細尾とYCAMが中心となり、大学、アーティストも加わって行った共同研究開発の成果展。開発した布の展示や、実際に触れられるコーナーをはじめ、美術家・吉田真一郎の大麻布コレクションも展示し、微視的で繊細な要素を表現する布の歴史へも思考を促す。

[日程]2017年12月9日〜3月11日

[会場]山口情報芸術センター［YCAM］

●徳島県徳島市

徳島県文化振興財団

〒770-0835　徳島市藍場町2-14

Tel. 088-622-8121　川口剛

http://www.kyoubun.or.jp/

AWA伝統芸能創造発信プロジェクト2018

かつての藍の交易がもたらした果実によって根を下ろした文化資源（邦楽・人形浄瑠璃・阿波踊り）を活用し、徳島ならではの文化を創造発信する新規プロジェクト。洋楽や舞踊などと融合したコンサート「徳島邦楽ルネッサンス」、義太夫節を映像とのコラボレーションなど新演出で魅せる「るりゐろ絵巻」、地元団体が阿波藍をテーマに新作を踊る「藍の国の阿波おどり」とユニークなプログラムを開催。現代のフィルターを通して“とくしま人”に根づく貴重な文化遺産を再発信する。

[日程]2月2日〜4日

[会場]あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）

昨年度の徳島邦楽ルネッサンス（青島広志出演のオペラ公演）

●高知県高知市

高知県立美術館

〒781-8123　高知市高須353-2

Tel. 088-866-8000　茂木恵美子

https://moak.jp/

岡上淑子コラージュ展 ―はるかな旅

“幻のコラージュ作家”として注目を集める岡上淑子の作品約110

点が一堂に会する初めての回顧展。オリジナルのコラージュ作品と写真作品に加えて、コラージュを元に近年制作したシルクスクリーンプリントとプラチナプリントも作家の新たな試みとして紹介。資料類の展示も併せ、幻の作家の真の姿に迫る。
[日程]1月20日～3月25日
[会場]高知県立美術館

●高知県香美市ほか
香美市立美術館
〒782-0041　香美市土佐山田町262-1
Tel. 0887-53-5110　門田陽奈
http://www.city.kami.kochi.jp/site/bijutukan/

3館合同特別展　高知の作家18人

香美市立美術館、四万十町立美術館、中土佐町立美術館の3館が、それぞれ高知県に縁のある作家を6名ずつ推薦し、作品を展示する。異なる地域の作家の相互交流を促す、また県民に豊かな鑑賞の機会を提供し、地域の文化振興を図ることを目的として特別展を実施することで、地方から文化を発信していく。
[日程・会場]四万十町立美術館:2月10日～3月25日／中土佐町立美術館:2月10日～3月25日／香美市立美術館:2月10日～3月18日

九州・沖縄

●長崎県佐世保市
アルカスSASEBO
〒857-0863　佐世保市三浦町2-3
Tel. 0956-42-1111　畠本哲郎
http://www.arkas.or.jp/

デーモン閣下と一噌幸弘が贈る能楽コンサート『幽玄悪魔』

デーモン小暮と能楽師・笛演奏家の一噌幸弘が共同企画する能楽公演。年間を通して1人の作曲家の作品を取り上げるオリジナル企画「Mプロジェクト」の今年度のテーマであるシューベルト『魔王』のほか、ふれる機会の少ない能楽古典の世界を知ってもらうためのアプローチとして、能楽古典から西洋のクラシック音楽、現代のロックが融合するコンサートとなる。
[日程]2月18日
[会場]アルカスSASEBO

●熊本県津奈木町
つなぎ美術館
〒869-5603　津奈木町岩城494
Tel. 0966-61-2222　楠本智郎
http://www.town.tsunagi.lg.jp/Museum/

加茂昴 その光景の肖像　アーティストインレジデンスつなぎ2017

空き家を利用した地域交流型滞在制作と美術館での個展を組み合わせたアーティスト・イン・レジデンス事業。4回目となる今回は、季節を春から秋に変え、独立した絵画をインスタレーションとして成立させる手法をもつ加茂昴を迎える。水俣地域の歴史や記憶を、地元の人への取材を通して掘り起こす作業を経て、今の自分にできることとして“祈り”をテーマに新作26点を制作。4カ月間津奈木町に滞在し、作家自らが築き上げた地域への素直な目線を表現する。
[日程]2017年12月2日～2月12日
[会場]つなぎ美術館

●大分県大分市
大分県芸術文化スポーツ振興財団
〒870-0036　大分市寿町2-1
Tel. 097-533-4500　吉田浩太郎
http://www.opam.jp/

歌心と絵ごころの交わり 二豊路 漂泊の画人 佐藤渓と俳人種田山頭火

湯布院の地で生涯を終えた詩人画家・佐藤渓の旅情あふれる作品群と、かつて二豊路を旅した漂泊の俳人・種田山頭火に関する資料を併せて展示し、旅にまつわる創作の醍醐味を作画と詩作の両面から紹介する。
[日程]2月9日～3月11日
[会場]大分県立美術館

●大分県別府市
ビーコンプラザ(別府国際コンベンションセンター)
〒874-0828　別府市山の手町12-1
Tel. 0977-26-7111　宮田良子
http://www.b-conplaza.jp/

ビーコンプラザオペレッタ劇場 瓜生島3カ年プロジェクト 新作音楽劇『瓜生島』初演

創作オペレッタを3年かけてつくり上げるプロジェクト。別府湾に存在したと伝わる瓜生島の伝説を、島の人々の人間模様や若者の悲恋などを盛り込んだ音楽劇として描く。初年度と2年目は本公演に向けて創作した合唱組曲を交えた音楽劇を上演し、最終年の今年、いよいよ初演を迎える。東京オペレッタ劇場などの協力を得て、幅広い層の県民が公演に参加する。
[日程]2月25日
[会場]ビーコンプラザ(別府国際コンベンションセンター)

講座・シンポジウム等

Tokyo Tokyo FESTIVAL 企画公募

2020年4月から展開していく「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の中核を担う目玉事業として、斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募集。採択された企画は2019年秋から20年9月までの間に東京都内で実施。提案者側を受託者として制作等を委託する。応募は個人、グループ、団体・法人誰でも可能。
[書類受付]2月1日～28日
[問い合わせ]Tokyo Tokyo FESTIVAL 企画公募事務局(アーツカウンシル東京内)
Tel. 03-6256-9921
http://ttf-koubo.jp/

Music Program TOKYO―Workshop Workshop！音楽がヒラク未来

全国4館連携フォーラム事業「音楽がヒラク未来」は、4つの地域の視点から、音楽がもつさまざまな可能性と社会に果たしうる文化施設の役割を模索する取り組み。今年度の成果報告として、芸術監督・監修の仲道郁代、参加アーティスト、各館(札幌コンサートホールKitara、東京文化会館、上田市交流文化センターサントミューゼ、北九州芸術劇場)担当者が集い、実施報告会を開催する。各地域における課題から、これからの芸術文化の担い手に求められることは何か、今何をすべきかを芸術文化関係者とアーティストが討議する。
[日程]3月2日
[申込締切日]2月15日
[会場・問い合わせ]東京文化会館事業係　Tel. 03-3828-2111
http://www.t-bunka.jp/

アメニティフォーラム22

障害がハンディにならない社会の実現を目指し、障害者の地域生活を推進していくための全国的なネットワークをつくることを目的に、毎年2月に滋賀県大津市で行われている今年で22回目のフォーラム。同時開催でアール・ブリュット作品の展覧会やバリアフリー映画祭も開催している。多岐にわたる分野の専門家を講師に招き、3日間多彩なプログラムが展開される。
[日程]2月9日～11日
[会場]びわ湖大津プリンスホテル
[問い合わせ]アメニティーフォーラム実行委員会
Tel. 0748-75-8210
http://amenity-forum-shiga.blogspot.jp/

▼—今月の情報（アーツセンター編）

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方
情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い
地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター（ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます）の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄で掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先
地域創造情報担当　宇野・高澤
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

●岩手県釜石市

釜石市民ホール TETTO

〒026-0024　釜石市大町1-1-9
Tel. 0193-22-2266
https://tetto-kamaishi.jp/

◎2017年12月8日オープン

東日本大震災で津波被災し全壊した旧釜石市民文化会館に代わって、文化芸術振興とともににぎわい創出の総合支援拠点として中心市街地復興の核施設となるべく開館。ホールAは壁面に集成材を多用し、豊かな響きと温かみを感じられる木のホールとなっている。1階480席と客席後方壁面を収納することにより、床面をすべてフラットにすることができる。また、平土間式ホールBとエントランス外の広場との一体利用も可能で、物産展などの多目的会場として使用できる。加えて、ギャラリーやスタジオ、和室もあり、幅広いジャンルの文化芸術活動に対応する。
周辺のエリアマネジメントを担う釜石まちづくり(株)が運営を行い、質の高い鑑賞事業と育成事業を併せて実施し、地域を支える人材育成の場、市民の文化芸術活動の場となることを目指している。
[オープニング事業]第40回かまいしの第九ほか
[施設概要]ホールA(838席)、ホールB(約200席)、ギャラリー(110m²)、スタジオA･B･Cほか
[設置者]釜石市
[管理･運営者]釜石まちづくり株式会社
[設計者](有)aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所

●川崎市

カルッツかわさき(川崎市スポーツ･文化総合センター)

〒210-0011　川崎市川崎区富士見1-1-4
Tel. 044-222-5211
http://culttz.city.kawasaki.jp/

◎2017年10月1日オープン

川崎区富士見にある富士見公園の一角(川崎市体育館跡地)に、老朽化した川崎市体育館と川崎市教育文化会館のホール機能を有する複合施設が誕生。民間の創意工夫や知識、ノウハウを活用した効果的･効率的な施設整備や市民サービスの向上等を図るため、PFI事業にて運営する。スポーツやコンサート、演劇をはじめ、レクリエーション、会議、講演会など、幅広い活動に利用可能。プロセニアム形式のシューボックス型ホールはクラシックにも対応した音響性能とオーケストラピットを有する。大体育室とホールが、共有部分(プラザ)を挟んで向かい合う形で配置され、施設を一体利用することも可能となっており、スポーツと文化の共存･融合を可能にする施設として、さまざまな市民ニーズに対応できる運営を目指す。
[オープニング事業]藤原歌劇団と市民合唱による合唱の祭典オペラ･ガラ･コンサートほか
[施設概要]大体育室(1,952m²)、小体育室(994m²)、ホール(2,013席)、アクトスタジオ、音楽練習室、会議室ほか
[設置者]川崎市
[管理･運営者]アクサス川崎
[設計者]日本設計･鹿島建設設計共同企業体

●新潟県十日町市

越後妻有文化ホール･十日町市中央公民館「段十ろう」

〒948-0083　十日町市本町一丁目上508-2
Tel. 025-757-5011
http://www.city.tokamachi.lg.jp/manabi_bunka_sports/D006/hall/index.html

◎2017年11月3日オープン

47年間、市民に愛された市民会館･中央公民館に代わる施設として建設されたホールと中央公民館の複合施設。「大地の芸術祭」のメイン会場でもある越後妻有里山現代美術館[キナーレ]など市街地の施設との連携を見据え、「“まち”と“ひと”を芸術･文化でつなぐにぎわい拠点」として、多くの市民から気軽に利用され、愛され続ける施設を目指す。
708席のホールは十日町で出土した国宝火焔型土器をイメージしてつくられるなど、デザインも十日町らしさを重視。1階と2階を階段状の吹き抜け空間で繋いだ「だんだんテラス」は誰でも気軽に過ごせるスペースとしてつくられ、交流をコンセプトにする段十ろうの名前の由来にもなっている。また施設内外に、インスタレーションやモニュメントなど4つのアート作品が配置され、大地の芸術祭との連携も図る。
[オープニング事業]高嶋ちさ子12人のヴァイオリニスト
[施設概要]ホール、アーティストラウンジ、練習室、講堂、雁木ギャラリー、多目的スペースほか
[設置者]十日町市
[管理･運営者]十日町市
[設計者]梓･塚田設計共同企業体

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

京都市

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展「語りがたきものに触れて」

上：プロジェクトトーク「福島に向き合う・福島を伝える」（12月10日／京都文化博物館別館）
下：岡部昌生のフロッタージュ作品《被曝し続ける樹》（会場：ART OFFICE OZASA）

●はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト
福島県立博物館が事務局を担い、福島県内で文化事業に携わる大学、NPO、文化施設などと連携して2012年度から実施。はま（太平洋側）・なか（中央部）・あいづ（山間部）3地域の連携と、滞在制作をコーディネート。福島の今、未来をアートで考え、伝える取り組みを行っている。
［主なアートプロジェクト］岡部昌生フロッタージュプロジェクト、福島写真美術館プロジェクト、飯館村の記憶と記録プロジェクト（写真家・岩根愛）、暮らしの記憶プロジェクト（写真家・安田佐智種）、福島祝いの膳プロジェクト（フードアーティスト・中山晴奈）、震災・大事故と文化財を考えるプロジェクト（映像作家・藤井光）、黒塚発信プロジェクトなど
［2017年度の活動内容］「記憶の共有 心の共感」（8月4日、5日 ※成果展in京都プレトーク）、成果展in郡山（9月6日～29日）、シンポジウム「厄災の記憶 その表象可能性」（10月5日／いわき芸術文化交流館アリオス）、トーク＋縒葉せんだん太鼓（9月9日／郡山女子大学）、成果展in福島（10月～12月中の3期／福島大学）、成果展 in 別府（11月3日～19日）、成果展in京都（12月2日～17日）

●成果展県外開催地
公害の歴史を語り継ぐ水俣市に隣接する熊本県津奈木町、足尾銅山と渡良瀬川で繋がる栃木県足利市をはじめ、長野県大町市・松本市、静岡市、浜松市、新潟県長岡市・新発田市、大分県別府市、京都市など。

東日本大震災から7年。津波と原発事故という未曾有の災害を経験した福島で、2012年から福島県立博物館が事務局となり、「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」が行われている。その活動内容は、「アートで考える 伝える」をテーマにした成果展として公開され、2015年からは福島県外においても実施されてきた。17年12月2日から17日まで京都で開催された成果展「語りがたきものに触れて」の模様を取材した。

●

成果展の最大の目的は、文化連携プロジェクトの活動内容や知見、問題意識を広く共有し、発展させること。そのため開催地ではこうした考えに共感する人・団体をパートナーとして実施している。京都では、京都府のアーティスト・イン・レジデンス事業を担当している文化スポーツ部の八巻真哉氏や各会場が協力者となり、4会場で作品を展示したのに加え、7つのトークイベントが企画された。

作品展示では、プロジェクトで蓄積されてきたアーティストの滞在制作活動が震災の記憶のアーカイブとして展示されていた。なかでも2013年から継続的に福島に通い、フロッタージュで放射能除染のために切り倒された神社境内の樹木の切り株や防波堤の傷を映した岡部昌生の展示は圧倒的だった。西陣のギャラリーを覆い尽くした擦過痕は、アーティストが作家個人の作意を超えて土地の記憶の立会人となり、アートが時代と土地の記録媒体として非常に有効に働くことを証明していた。

また、江戸期の学問所であった有斐斎弘道館や下鴨神社などには、福島写真美術館プロジェクトによって撮りだめられた写真や、流された家の跡地を詳細に記録した安田佐智種の写真などを展示。また、新たなプロジェクトとして福島県の安達ヶ原を舞台とする鬼婆伝説をクローズアップし、新しく創作したダンス映像の上映や、関連事業として能『安達原』の上演も行われた。

トークイベントでは、数々の戦乱や疫病、栄枯盛衰を繰り返してきた京都と福島に共通する“悼み”や“記憶”、地域とアーティストとの関係を紡ぐ“滞在制作”などをテーマに合わせて18時間を超える議論が行われた。12月2日のトーク「悼みと共感の文化」では、京都在住のアーティスト・やなぎみわが自身の演劇作品に重ねて戦前の京都での在日朝鮮人の労働について語り、武蔵大学教授の香川檀がヨーロッパでホロコーストの記憶に対して現代アーティストたちが取り組んだアクションについて紹介し、他者の“悼み”と向き合うアートについて参加者と共に考える時間となっていた。

そのほか、トークイベントには、プロジェクトに参加したアーティストや福島から奈良に自主避難した彫刻家、宗教学者、経済学者など多様なジャンルのゲストが登壇。「福島」「震災」をキーワードとしながらも地域や歴史や文化を繋ぐという地域に限定されない思いを共有する場ともなっていた。福島県立博物館で「会津・漆の芸術祭」を担当するなどアート関係の事業を推進し、同プロジェクトの事務局を担う川延安直学芸員は次のように話していた。

「芸術祭を行ってきた繋がりがあり、被災直後からアーティストの被災地での活動をサポートしてきました。我々は美術館ではなく、博物館です。“物”を通して記憶や文化を繋いでいく場所として、作品を創作するというのではなく、このプロジェクトではアーティストと地域を繋ぐコーディネート役に徹してきました。その結果、アートの手法で残された福島の記憶のアーカイブと、問題意識を共有する人々とのネットワークが出来た。福島以外の土地にも公害や原爆、原発問題など悼みの記憶（記録）と克服してきた知恵があります。福島に住む私たちは自分たちの取り組みを発信するだけでなく、そうした歴史や情報、知恵を学びたいと思っています。この繋がりを発展させ、負の歴史や遺産を扱っている博物館同士のミュージアム・ネットワークがつくっていければと思っています」

今なお多くの悼みと問題を抱える福島から、アートという手法で記憶を繋ぎ、世界と繋がる新しいネットワークが生まれているのをひしひしと感じた。（アートジャーナリスト・山下里加）